

武将観光パンフレット

物語の舞台をゆく

信長・秀吉・家康のふるさと愛知



Go to the Samurai's historical stage.



物語の舞台をゆく

信長、秀吉、家康の ふるさと愛知。

愛知県(尾張・三河)は歴史、特に戦国時代史の宝庫である。天下取りの三英傑といわれる織田信長・豊臣秀吉・徳川家康が三人ともこの地の出身だったことで、その家臣として活躍する武将が多数輩出した。まさに、愛知は武将のふるさとであった。

その愛知には、武将たちゆかりの城館跡や古戦場もたくさん残っている。小さな箱庭のような公園になっているところもあれば、実際の戦いぶりを彷彿とさせるような古戦場もあり、また、そうした武将たちにつわるまつりも伝承されている。

戦国時代史はまだ謎だらけである。そうした武将たちの物語の舞台を実際に歩くことで、謎解きに挑戦し、新たな発見をするのも楽しい。戦国ドラマのほとんどは愛知から始まる。

小和田哲男(静岡大学教授)



徳川家康



豊臣秀吉



織田信長



和暦	西暦	織田信長	豊臣秀吉	徳川家康	年齢
天文3	一五三四	織田信秀の三男として勝幡城(那古野城)で誕生。幼名「土法師」。1歳にして那古野城主となる。	弥右衛門の子として豊前中津(名国市)で誕生。幼名「白馬丸」。		
天文6	一五三七				1
天文11	一五四二				6
天文15	一五四六	父信秀の城・古渡城にて元服。			10
天文16	一五四七	三河・主民に初陣。			11
天文17	一五四八	奇襲道三の娘・濃姫と結婚。			12
天文18	一五四九	父・信秀死去。家督を継ぐ。	永楽陸奥文をもつて遠州へ。松下加兵衛に奉公。		13
天文20	一五五一				15
天文21	一五五二	赤塚の戦い(山口郡・教吉)／萱津の戦い(坂井・大膳)。			16
天文22	一五五三	平手政秀・信長の素行を認め自刃／安良の戦い(織田・彦五郎)／斎藤道三・聖徳寺にて会見。			17
天文23	一五五四	村木城攻略(今川氏・彦五郎)／清洲城攻略(織田・彦五郎)／清洲入城(家臣)。	尾張に帰る。信長に仕える。		18
弘治2	一五五五	稲生の戦い(柴田勝家・林秀吉)。			19
弘治3	一五五七	弟・信行が背いたため清洲城に誘い殺害。			20
永禄元年	一五五八	品野城攻撃(松平家次)／浮野の戦い(織田・信賢)。			21
永禄2	一五五九	岩倉城攻略(織田信賢)／將軍・足利義輝に謁見／尾張を統へ。			22
永禄3	一五六〇	吉良方面出兵(今川氏・義元)／美濃侵略(斎藤義隆)。			23
永禄4	一五六一	梅ヶ坪・伊保城攻撃(三平・師貞)／築山城攻略(斎藤龍興)／十四条の戦い(斎藤龍興)／稲葉山城攻撃(斎藤龍興)。			24
永禄5	一五六二	小口城攻撃(織田信清)／清洲城で松平元康(家康)と会見し同盟を結ぶ(清洲同盟)。			25
永禄6	一五六三	新加納の戦い(斎藤龍興)／信濃の城(主徳)と元康の嫡男(信康)の婚約が成立／居城を小牧城に移し、古乃の御殿も建てて。			26
永禄7	一五六四	犬山城攻略(織田信清)。			27
永禄8	一五六五	宇留摩・猿塚城攻略(大沢氏・多分信氏)／堂洞城攻略(多分氏)。			28
永禄9	一五六六	河野島の戦い(斎藤龍興)。	墨谷城築城。		29
永禄10	一五六七	長島向(揆攻撃)／橋／高岡城攻略(橋氏)／稲葉山城攻略し、斎藤龍興を追放。岐阜と地名を改める。			30
永禄11	一五六八	浅井長政と同盟。お市の方が嫁ぐ／足利義昭を擁して上洛。			31
天正元年	一五七三	浅井朝倉を攻め滅ぼす。			32
天正3	一五七五	長篠の戦いで武田勝頼軍を破る。	この頃、羽柴を称す。		33
天正4	一五七六	安土城を築城。	長篠の戦いに参戦。		34
天正7	一五七九	家康に嫡男・信康の自害を要求。	駿河に侵入。		35
天正10	一五八二	天目山麓で武田勝頼を滅ぼす。本能寺で明智光秀に攻められ自害。	小牧・長久手の戦いで家康軍に敗れる。織田信雄と和睦。		36
天正12	一五八四		山崎の合戦で明智光秀を破る。		37
天正13	一五八五				38
天正14	一五八六				39
天正18	一五九〇				40
慶長3	一五九八				41
慶長5	一六〇〇				42
慶長8	一六〇三				43
慶長10	一六〇五				44
慶長15	一六一〇				45
慶長16	一六一一				46
慶長19	一六一四				47
慶長20	一六一五				48
元和2	一六一六				49

●表紙／長篠合戦図屏風(犬山城白帝文庫蔵) ●裏表紙／彦根屏風(彦根城博物館蔵)・花下遊楽図屏風(東京国立博物館蔵)

名古屋

中世を破壊し、近世の扉を開いた男。

織田信長、誕生

天文3年(1534)

天文三年(一五三四)五月十一日、
尾張の那古野城※で不出生の天才児が誕生した。
幼名を吉法師、後の織田信長である。
この日、濃尾平野は梅雨の曇天におおわれ、
風さえ激しく吹き荒れて、
波乱に満ちた彼の生涯を
暗示するかのようだったという。
生まれながらに痼癖の強い子だった。

安部龍太郎『信長街道』新潮社より



那古野城址の碑

信長14歳、秀吉11歳、家康6歳。
460年前、3人の天下人が
名古屋にいた。

エリソン、ガリレオ、ニュートン…。
世の天才たちと同じように、信長も
また、異端児であった。奇抜な服装で
町を歩き、突飛な行動で人を驚かせ、
手習いに通った凌雲寺では劣等生の
烙印を押された。そんな彼を人々は
「うつけ者」と呼んだが、父・信秀だけ
は、その資質を見抜いていたといわ
れる。それだけに、父を失った悲しみ
は、あまりにも大きく、彼を奇行に走
らせたのだらう。

信長は生後まもなく那古野城主と
なり20歳まで名古屋で暮らす。4歳
の時に中村(中村公園)で日吉丸(秀
吉)が誕生し、14歳の時に竹千代(家
康)が織田家の人質として熱田に幽
閉される。信長が日々馬を駆けた遊
び場である。日吉丸も竹千代も「う
つけ」の吉法師を見たに違いない。

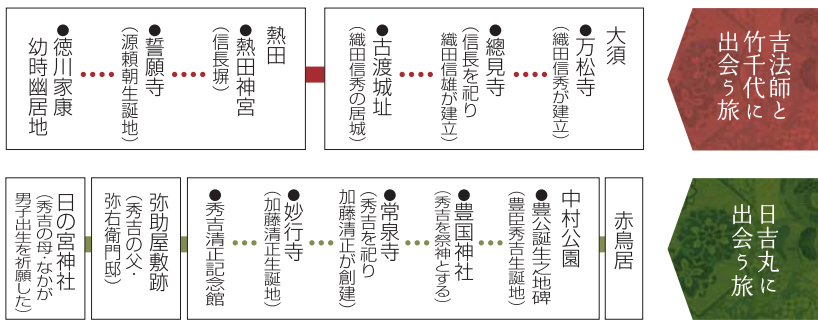
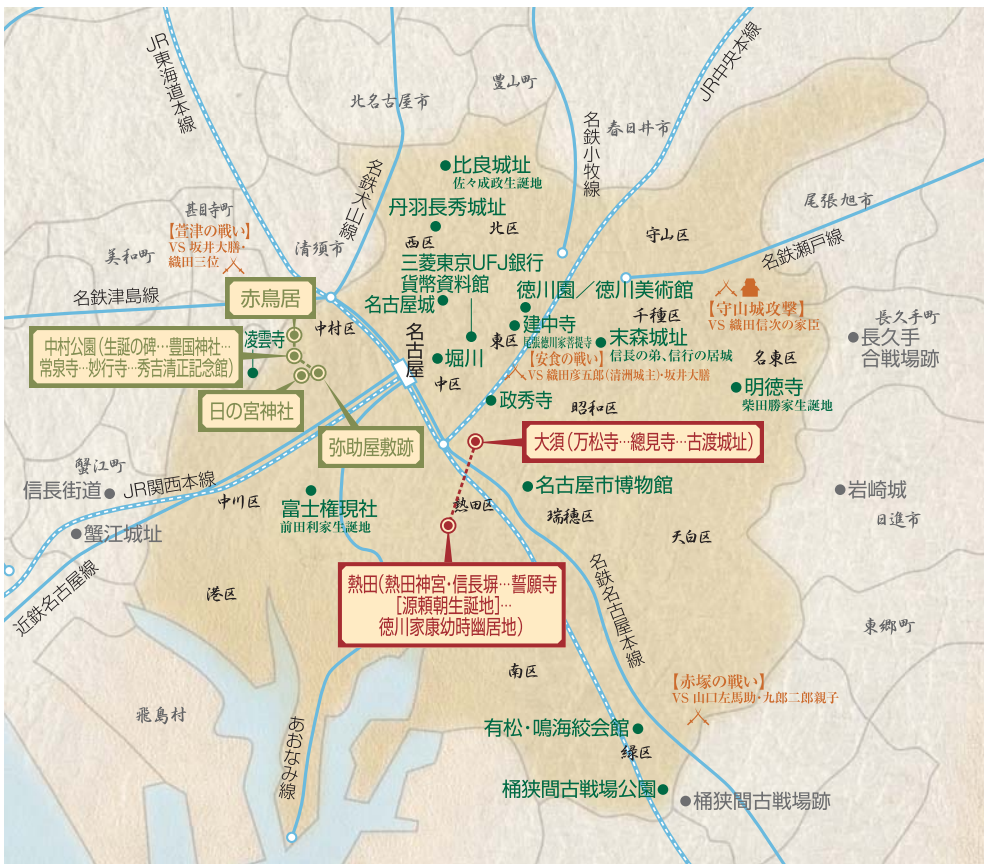


信長初陣の図／
講談社・山岡荘八「織田信長」より

おすすめ観光スポット

吉法師と
竹千代に
出会う旅

日吉丸に
出会う旅



●詳しくは愛知県観光ガイドをご覧ください。www.aichi-kanko.jp/

“うつけ者”と呼ばれ、家臣や家族からも疎まれた信長。
やがて彼が天下を平定することを、
誰が予想したことだろう。

物語の舞台をゆく

Nagoya



うつけか傾き者か、
パンクファッションで
町を徘徊していた
信長。
髪型、服装など、すべて
が普通ではなかった信
長。礼と格式を重んず
る武家、しかも那古野
城主としては許しがた
い風体であった。



「絵本太閤記」より

万松寺で行なわれた
父・信秀の葬儀。
なぜ信長は、仏前に
抹香を投げつけたのか？
喪主でありながら葬儀に遅れ、
抹香を驚つかみにし仏前に投げ
つけたといふ。唯の理解者を失っ
た信長は、やり場のない怒りと
悲しみを、この
ような異常な
行動でしか表現
する術を知らな
かったのだらう。



ついに親代わりの
平手政秀も自刃。
その頃、人生の師・
沢彦と出会う。
政秀の自刃
により、信
長は生まれ
変わる。沢
彦に学問を学び、義父・
斎藤道三との対面でも
輝きを放つ。政秀のため
に信長は政秀寺を建立。
沢彦和尚が初代住職。



政秀寺

信長が信仰した
熱田神宮。
竹千代(家康)や
源頼朝とも縁が。
桶狭間の戦い、長篠の戦
いなど、神仏を信じない
といわれる信長が熱田
神宮には何度も参拝し
信長塀を寄
進。竹千代の
幽居地、源頼
朝の生誕地
も近い。



熱田神宮

貧農の子から神になった豊臣秀吉。

天文6年(1537)、那古野城からほど近い
中村(中村区中村公園)で
豊臣秀吉が誕生する。幼名・日吉丸。
家業は農家とも、キコリともいわれている。
文字どおりゼロから天下人となった
日本史上屈指の“成り上がり者”である。



豊国神社、常泉寺、秀吉清正
記念館など、中村公園を
訪れずに、秀吉は語れない。
公園内に生誕の碑、菩提寺、
資料館がそろう。出自
が謎に包まれた秀吉だけに、
貴重なエリアだ。豊国神社の
大鳥居をくぐると秀吉一色。



豊国神社



妙行寺(清正像)

戦国のヒーローたちを
輩出した名古屋。

妙行寺の加藤清正をは
じめ柴田勝家(名東区上
社)、佐々成政(西区比
良)、前田利家(中川区
荒子)、丹羽長秀(西区
児玉)も名古屋生まれ。

2010年、 名古屋城は築城400年。

最高の技能者を集めた、徳川家康の大傑作。

築城には当時最高の人材が集めら
れた。築城の名手・加藤清正をは
じめ、障壁画の狩野探幽、城大工・
中井正清、小堀遠州など。存命中に
完成した家康の代表的な城である。



城郭御殿の傑作「本丸御殿」。

名古屋城築城・名古屋開
府400年を記念して復
元される「本丸御殿」。
戦争で焼けるまでは、京都・
二条城の二の丸御殿と並び城郭御殿の最高傑
作であった。武家文化の原点が、いま蘇る。



※織田信長の生誕地は、那古野城説と勝幡城説があり、現在供勝幡城説が有力です。



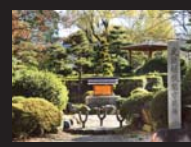
齊藤道三との対面、吉乃との恋、
沢彦との出会い、桶狭間への出陣…。
尾張で体感できる、信長の青春時代。

織田家の聖地、
勝幡城。
織田信長は、
ここで生れた。
祖父・信定が築城。父・
信秀の代に津島の商人と手を結び勢力を拡大した。信長の生誕地は2説あるが、ここ勝幡城が有力だ。

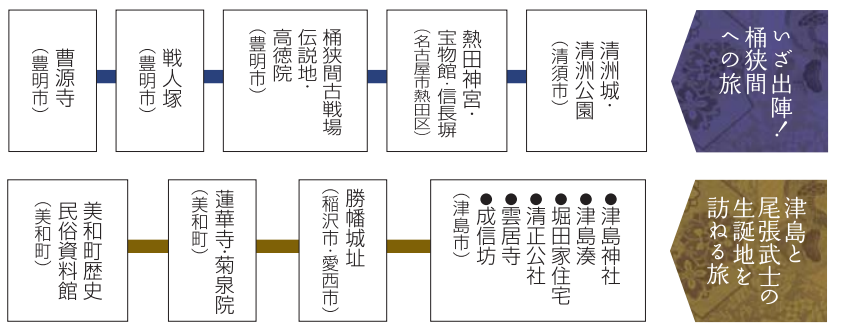
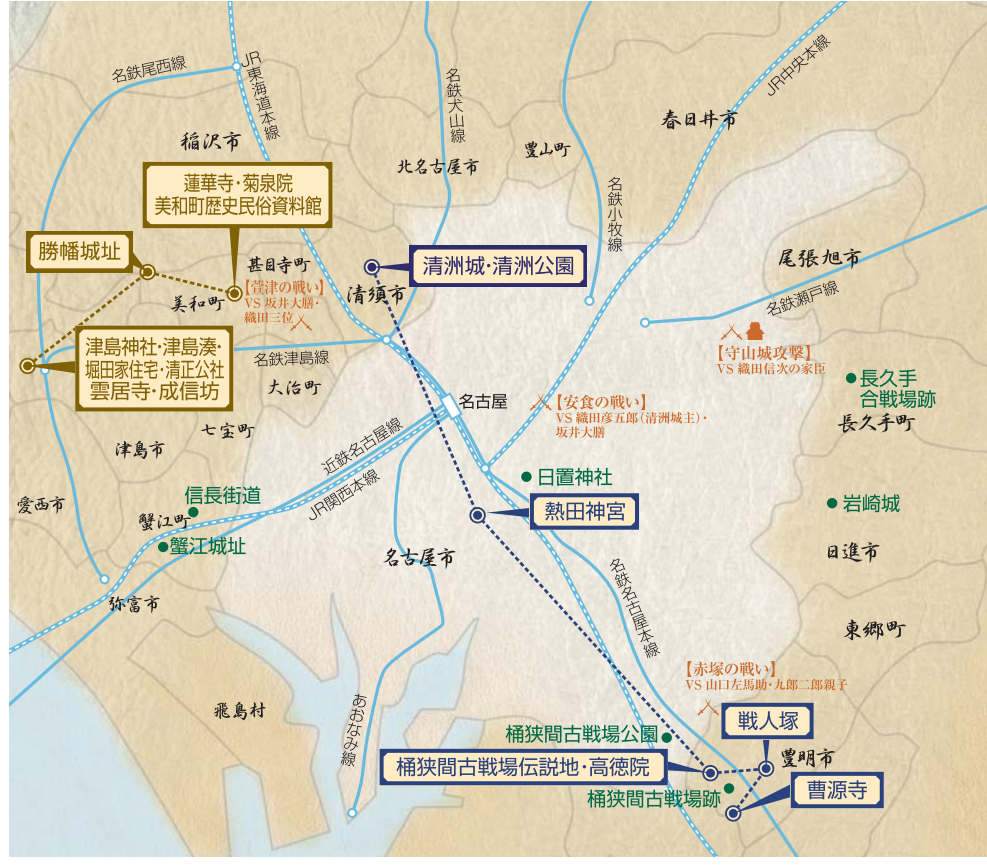
蜂須賀、福島、溝口など、
尾張武士のふるさと美和町。
美和町歴史民俗資料館
美和町歴史民俗資料館
美和町歴史民俗資料館



物語を胸に、
桶狭間古戦場を歩いてみよう。
散策路を名古屋市緑と豊明市が選定。この2つのコースを歩くと、戦場の広さ・地形・状況が把握でき、当時の臨場感を肌で感じる事ができる。



服部小平太の
菩提寺、雲居寺。
信長を苦しめた
成信坊・祐念。
津島には、今川義元が奮戦を
付けた服部小平太の菩提寺・雲居寺。
寺・雲居寺、長島寺、一向一揆の立役者、祐念が住職の成信坊がある。



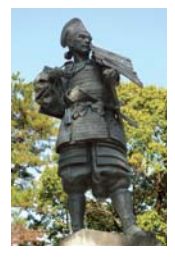
●詳しくは愛知県観光ガイドをご覧ください。www.aichi-kanko.jp/

信長の「天下統一」は、清須からはじまり、清須で終わった。

清須、小牧、岐阜、安土と、天下に向け着実に歩を進めていった信長だが、いつまでも清須は、特別な存在であった。桶狭間への出陣、尾張統一、美濃攻略、家康との清須同盟…。清洲城を離れてからも、嫡男・信忠を城主にすえ、たびたび清須に立ち寄っている。「本能寺の変」後、弟・信雄が城主となり「清洲会議」が開かれた。この会議で秀吉が天下を掌握し、信長の時代は終る。



清洲公園には「ふれあい郷土館」や「甲冑工房」も。
清洲城には、桶狭間出陣コーナー、公園内には甲冑が試着できる甲冑工房など、信長関連の展示が充実している。



清洲古城跡、総見院など、
信長を知るには、ここ清須から。
織田家躍進の拠点、清須。清洲公園には、信長の最も有名な像が建つ。総見院には「焼き兜」も遺されており、当時の繁栄が偲ばれる。

当時、尾張最大の湊町、津島。ここが信長の「町づくり」のルーツ。

新しい経済の仕組み。師・沢彦との出会い。信長に与えた影響は計り知れない。
湊町であり、津島神社の門前町である津島。信長の革新性はこの町で培われた。商業の大切さ、祭りの効果、人脈など、その成果は安土文化で結実する。師・沢彦との出会いも津島であった。

信長が女踊りを舞った、堀田家住宅。

『信長公記』によれば、信長は津島で盆踊大会を催し、天女の姿で小鼓を打ち、女踊を舞った。と書かれている。その舞台になったのが津島の堀田家住宅。



尾張

桶狭間の戦い

永禄3年（1560）

若き信長、東海の覇者・今川義元を討つ。



今や信長は仁王立ちになっている。「儂はのう、夜が明けりや城を出て今川の猪めを退治いたすでや。儂について参る者は力を尽くし大功をいたせ。われに十倍の敵と決戦いたすは、男子の本懐と申すべし」
気鋭の武士たちは、信長の本心を聞いてふるいたった。表情の間に、つわものどもの不敵な笑い声が湧きおこった。
津本陽『絵物語「天下は夢か」』日本経済新聞社より

©池上遼一/メディアファクトリー



豊明市教育委員会蔵



織田信長の人生と、日本の歴史を変えた「桶狭間の戦い」。
今川義元ほど誤解されている武将はいない。お困黒公家くすれというイメージは後の脚色で、実際は「海道」の司取りといわれるほど文武に優れた大名であった。その今川2万5000に、信長は2000の兵で戦いを挑んだ。こうして日本の合戦史に残るドラマが生れる。この戦いは東海の地図を書き換えた。家康は今川から独立し、武田信玄は駿河に進攻し勢力を飛躍的に拡大した。織田信長27歳、尾張小大名の名前が、全国にこころく。また信長が戦勝祈願をした日置神社と熱田神社には、それぞれ信長が寄進した松千本と信長堀を見ることが出来る。



尾張を制する者が天下を制す。
豊臣秀吉もまた、
尾張から、歴史の大舞台へ駆け上がった。

義父・斎藤道三と
聖徳寺で対面。
あの美濃の蜷が、
信長に
圧倒される。
守役・平手政秀の死は、
信長を大きく変えた。
もはやこのまっつけ
ではなく、
美濃の蜷
を圧倒す
ほどの若
武者だった。

聖徳寺跡

信長の憩いの場所、
生駒屋敷。
ここで吉乃と恋をし、
秀吉と出会った。
信長が唯一心を許した女性、生
駒吉乃。吉乃との間に信忠、信
雄、徳姫をもうけている。秀吉
との出会いも
生駒屋敷だ。こ
の近くには、「武
功夜話」が発見
された前野家
屋敷跡もある。

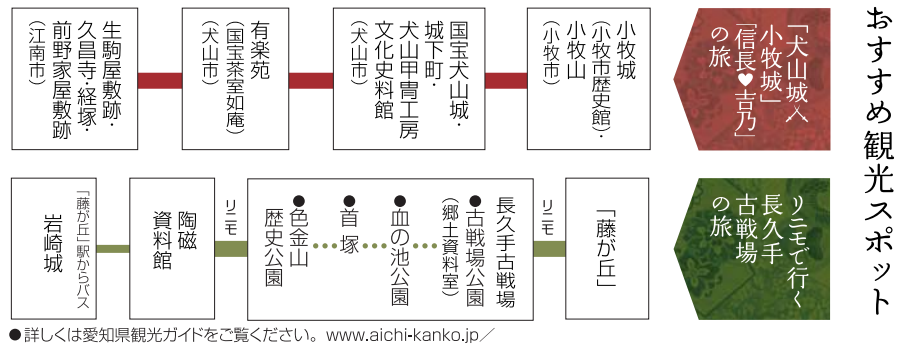
生駒屋敷跡

まるで
タイムスリップ。
城下町の面影が、
そのまま残る大山市。
国宝の犬山城、茶室・如
庵をはじめ、成瀬家の
白帝文庫、甲冑工房か
らくり展示館など、町
中が史跡・名所の宝庫だ。



「瀬戸六作」を選定。
信長がこよなく
愛した瀬戸焼。
瀬戸村を訪れた信長は、
特に優れた陶工六人を選
び「瀬戸六作」を定め、朱
印状を発行。同時に禁窯
令を発し、
瀬戸以外
での焼き
物を禁じ
ている。

窯垣の小径



豊臣秀吉48歳、徳川家康43歳。 ポスト信長をめぐる決勝戦。尾張 V S 三河「小牧・長久手の戦い」。

当初、決戦場として北伊勢が想定されていた。
突然、池田恒興と森長可が犬山城を占拠。
秀吉軍は犬山に本陣を置き、さらに楽田へ進軍する。
家康軍は、羽黒で池田・森隊をたたき、小牧山に陣を構えた。
約4.5kmの距離で、両者のにらみ合いが続く。

信長が築城した小牧城に、家康は本陣を置いた。



楽田城址

秀吉軍10万は、犬山城から
楽田へ南下。家康軍を揺さぶる。
留守になった岡崎を攻撃
するために、豊臣秀次を総
大将とする池田・森隊が、
密かに三河に向け進軍した。



約1万の秀吉軍に
果敢に挑んだ岩崎城。
途中、16歳の丹羽氏重が
「見逃すのは末代までの恥」
と、約200名の岩崎城兵で、
1万の池田隊を攻撃、玉砕。



【長久手の戦い】
豊臣秀次隊が奇
襲を受け敗走。
池田、森など多く
の歴戦の勇士達が討ち死にした。



【蟹江合戦】
滝川一益、九鬼水
軍は、いったん家
康方の蟹江城を
占拠したが、家康
勢に蹴散らされた。



名古屋市長吉清正記念館蔵



徳川美術館蔵



家康軍1万6000は、
小牧城に本陣を構えた。

圧倒的な兵力
の敵軍に対して、
壕をめぐらし、
持久戦をとった。

小牧・長久手の戦い

天正12年(1584年)

秀吉(犬山城) V S 家康(小牧城)、初めて最後の全面対決。

尾張



池田勝入斎の
作戦上の懇願というのは、
「この滞陣をさしわい、
ひそかに兵をおこして
家康の本拠の三河を奇襲したい」
ということであった。
山間部を隠密行軍し、
にわかに三河へ乱入し、
それによって尾張の前線にいる
家康を狼狽せしめ、
一挙に徳川方を潰乱へ
みちびくということであった。
「中入れ」の作戦である。
司馬遼太郎「新史 太閤記」新潮社より



羽黒城址

戦いは、
家康軍の完全勝利。
しかしその後の籠絡で、
秀吉が天下人へ。

絶対君主・信長の死は、反勢力だけ
でなく多くの武将たちに大いなる
安堵を与えた。もちろん、秀吉や家康
も例外ではない。2人は初めて野心
を見せる。秀吉は、「本能寺の変」で
自刃した信長の嫡男信忠の遺児・三
法師を擁立。信長の次男・信雄を後
見人とし、ポスト信長の先頭に立つ。
一方家康も、秀吉の策略に気づいた信
雄に手をさし伸べアンチ秀吉の旗を
上げ、天下を狙う。こうして「小牧・
長久手の戦い」は始まった。
戦いは局地戦とはいえ、家康軍の
圧倒的な勝利で終る。この戦いは、尾
張武士と三河武士の戦いでもあり、
改めて三河武士の強さを天下に知ら
しめた。しかし、ここから秀吉が本領
を発揮する。再度、信雄を籠絡し、信
雄と和議を結び、合戦の大義名分を
失った家康は、振り上げた刀を、鞘に
収めるしか術がなかった。



国宝・犬山城

信長、禁窯令を発す

天正2年(1574)

今後、瀬戸焼“以外の焼き物を禁ずる。

水野監物はこの禁窯令を、常滑の城でうけた。朱印状をもらった信長の使いから、直々につたえられた。「このは、わが領内でやきものを焼くなどおさせられるか」監物の声がふるえた。

「いかにも。諸国からの注文もござろうゆえ、すぐにとはもうされておらぬ。一定の期限のあと、禁窯令を徹底させよと、ご朱印状に記されておりましよう」使者は信長の近侍平子弥伝次。

堺まで出かけ、名物狩りにはたらいた人物は、そっけない声でいった。常滑のやきものを禁ずるのは自分に死ねといっているようなものだ。やきもので得た常滑水野家の財力が、信長の天下平定に、どれだけ益してきただろう。

澤田ふじ子「修羅の器」光文社より

尾張と三河の間で揺れ動く知多の武将たち。常滑焼を禁じられた常滑城主・水野監物は、窮地に追い込まれる。

尾張と三河に挟まれた知多の武将たちは、常にどちらにつく選択を迫られていた。緒川刈谷城主 水野忠政は娘・於大を松平・広忠に嫁がせ、姻戚関係を結ぶ。広忠と於大の子が竹千代(家康)である。しかし、息子 水野信元は転じて織田方と手を結び、於大は広忠から離縁される。信元は桶狭間の戦いの後、大高城の松平元康(家康)に手を差し伸べ、後に、信長と家康の「清須同盟」にも尽力し、両者と懇意な関係を結んだ。

同時に、水野一族は常滑に進出し、念願の常滑焼を手中に収める。常滑領の石高は一万一千石だが、実質的には十萬石にも相当したという。禁窯令が出された翌年、常滑城主 水野監物が「長篠の戦いから戻ると常滑の窯はことごとく破壊されていた」という。水野監物は、その恨みから「本能寺の変の後、明智光秀方につき、常滑・水野家は廃絶に追い込まれた。



常滑焼・醸造品・海産物を輸送し、都の文化を持ち帰る。伊勢、堺、京都と交流していた海の武将たち。



古くから常滑焼は、全国に運ばれていた。千年の歴史を持つ常滑焼。平安時代には、瓶や壺が京や奈良で使われていた。



漫才のルーツ、知多市の「尾張万歳」。実は、漫才のルーツは、ここ知多市八幡。今でも続いている日本の伝統芸能だ。



亀城公園(刈谷城址)

家康最大の危機、「伊賀越え」ルート。本能寺の変の後、家康一行は、危険な伊賀越えを決行する。鈴鹿山脈を越え、伊勢日子浜(鈴鹿市)へ。そこから常滑→常楽寺→半田→大浜(碧南市浜寺町)→岡崎城(無事に帰還した。



家康の危機を2度救った、半田市の常楽寺。桶狭間の戦いの後、伊賀越えの際、家康が危機の時に、常楽寺を訪れている。



内海船(江戸期)

家康19歳、母・於大33歳、16年ぶりの再会。知多を舞台にした、母と子の物語。

すでに於大は、阿久比城主・久松俊勝と再婚していた。久松俊勝は、織田方の武将であった。元康(家康)は、母を訪ねて敵方の城へ来たのだ。俊勝は、武士の情として、見て見ぬふりをしたという。「どうか生き延びてくださいや」。母・於大はそう言って涙を流した。「桶狭間の戦い」は、その2日後であった。



緒川城址

水野氏の発祥地、緒川城。ここで於大は生れた。緒川城址と菩提寺・乾坤院が残る東浦町では、毎年4月下旬に「於大まつり」を開催している。



椎の木屋敷跡

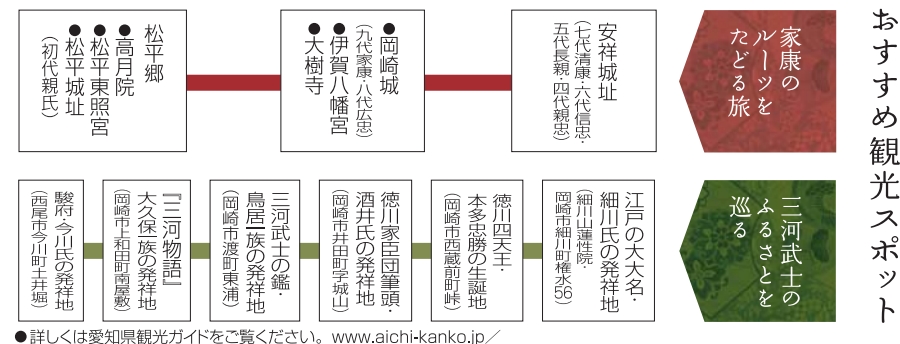
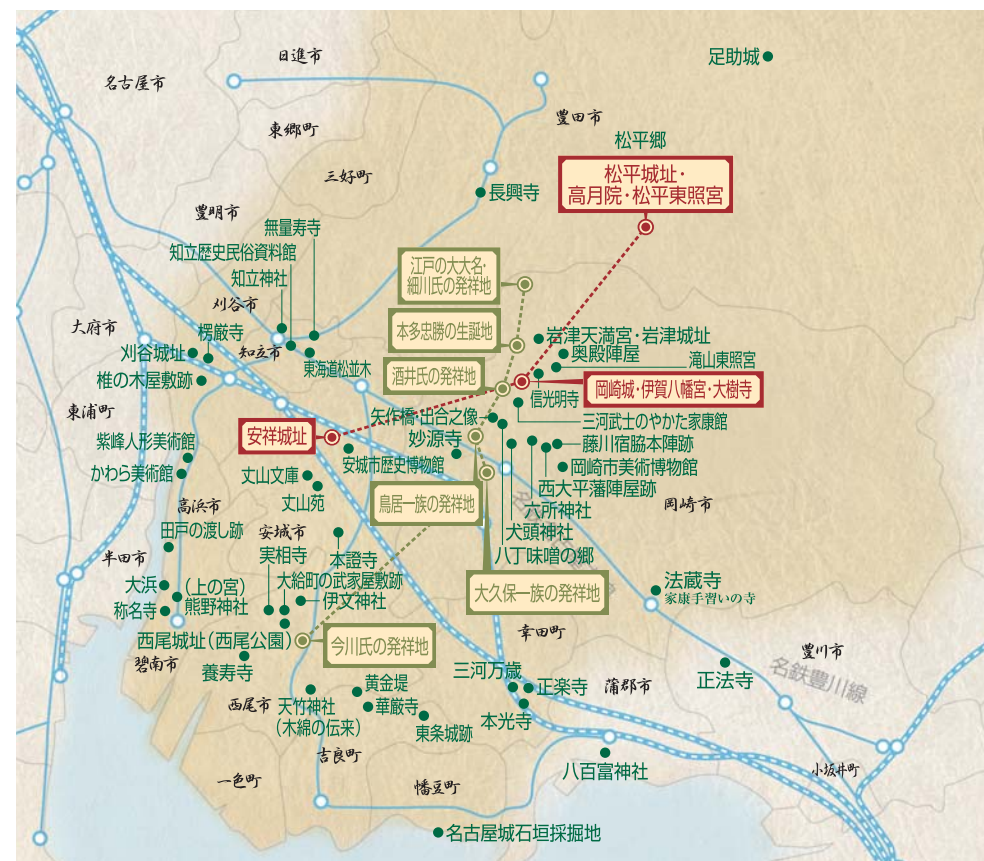
於大(19歳)は、椎の木屋敷に住み、楞嚴寺で仏門に入る。政略的な理由で、於大は刈谷城には入れず、この屋敷でひっそりと暮らしていた。

松平広忠と結婚し、竹千代(家康)を生むが、3年で離縁される。兄・水野信元が織田方についたため、3歳の竹千代を残し、刈谷に帰された。

竹千代(6歳)、織田家の人質となる。於大(20歳)、阿久比城主・久松俊勝と再婚。今川の人質として駿府に行く途中、竹千代は田原・戸田氏に奪われ、銭千貫文で織田信秀に売られた。その年、於大は久松俊勝と再婚し、嫡男・康元が誕生。江戸期、家康の義兄弟として久松松平氏の祖となり繁栄する。



30年後、江戸入府。
三河武士が、江戸の町をつくった。
西三河では、江戸のルーツが発見できる。



松平氏の発祥地・
豊田市「松平郷」。
徳川300年の栄華が、
こんな小さな山里で生
れたか。そんな感慨がよ
ぎる松平郷。初代親氏
を祀る高月院、松平城址、
松平東照宮など、江戸幕
府が聖地
と崇めた
多くの史
跡が見学
できる。

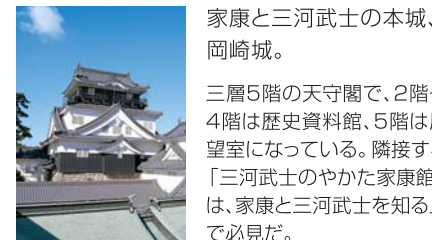
松平氏の基盤を
固めた安城市。
松平氏は、
松平郷、岩津
城、安祥城と
居城を移し、
安祥の50年
間で大勢力
となった。安城市には安
祥城址や三河一向一揆の
拠点、本證寺、石川丈山
ゆかりの丈山文庫・丈
山苑がある。

城下町の
面影が残る、西尾市。
西尾公園には、西尾城本
丸丑寅櫓。武家屋敷や板
堀、石垣の路地も残り、城
下町の情緒が楽しめる。
家康ゆかりの養寿寺や吉
良氏の菩提寺、美相寺、
綿の伝来伝
説が残る天
竹神社も見
逃せない。

西三河は史跡・名所の宝庫。
吉良町には吉良氏ゆかりの
黄金堤や華厳寺。大久保彦左
衛門で知られる幸田町には
彦左公園、深溝松平氏の本光
寺がある。碧南市には「伊賀
越え」で有名な大浜や「竹千代」
命名の寺、称名寺がある。高
浜市には家康ゆかりの「戸の
渡し跡」やかわら美術館。知
立市では家康が植えさせた
東海道、松並木が今も旅人
を楽しませてくれる。

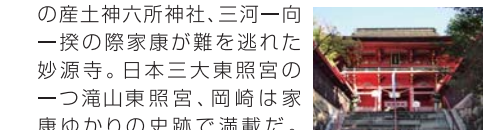
徳川家康の生誕地、岡崎市。点在する史跡・名所の数に驚かされる。

桶狭間での敗戦後、岡崎へ帰還。
松平元康（家康）は、ようやく人質生活から
解放され、岡崎城主として独立する。
以来、遠江、駿河、信濃、甲斐と領土を拡大。
「本能寺の変」後、豊臣秀吉の天下となり、
江戸への転封を命ぜられる。



家康と三河武士の本地、
岡崎城。
三層5階の天守閣で、2階～
4階は歴史資料館、5階は展
望室になっている。隣接する
「三河武士のやかた家康館」
は、家康と三河武士を知る上
で必見だ。

徳川將軍家の
菩提寺、大樹寺。
桶狭間の敗戦後、
追っ手から家康を守った大樹寺。松
平家・徳川將軍家
の菩提寺として歴代將軍の等身大の木造が安
置されている。多宝塔は国の重要文化財。



家康の勝利の神、
伊賀八幡宮。
松平四代・親忠が、松平氏
の氏神として三重県伊賀
から迎えた。將軍家の崇拜
は篤く家康は、大きな合戦
の際には必ず参拝したとい
われる。



主従合せて十八騎。
浅井道忠の細心な注意により、
途中無事に大樹寺へたどり着くと、元康は、
「――父の墓前へ死にに参った。
門を開かせ候え」と、申し入れた。
むろん死ぬ気で来たのではなかった。
登壇上人は、その裏の意味まで察して、
早々に寺の中へみちびくと、
わざわざ諸僧の前で、元康を訓戒した。
「――父の墓前で切腹とは、何という狭いご量見。
そのようなことで祖先の靈に済みましようや」
それは元康に聞かせるよりも、
二十人近い寺僧大衆に元康をかくまい通せと
命じるのであり、その決意を求める言葉であった。
元康にはそれがよくわかった。
わかるだけに神妙にうなずいているところへ、
織田勢とも野武士ともわからぬ一隊が、
元康主従を追いかけて寺の門へ迫って来た。
山岡莊八「徳川家康」講談社より

高力与左衛門清長
本多作左衛門重次
天野三郎兵衛康景
平岩七之助親吉

東三河

信長・秀吉・家康連合軍、武田軍を破る。

長篠の戦い

天正3年(1575)

「殿。織田と徳川の援軍は……」と、
ここまで叫んだとき、
強右衛門は自分でも押えきれない
激しいものが胸へつきあがってきた。
彼は無我夢中で、こう叫んでしまった。
「四万の援軍は、けさ早くに岡崎を発し、
いま、ここへ進軍ちゅうでござる。
早まって城をあけわたしてはいけませんぞ。
いま一日のごしんぼうでござる」
それは、強右衛門自身でさえ、
思いもかけぬことであつた。
彼は武田勝頼のいうままに、
「援軍は来ませぬ。おあきらめください」と、
いつもりだったのである。
長篠城の中から、
「うわあ……」どよめきが鳴りわたった。
池波正太郎「炎の武士」講談社より



犬山城白帝文庫蔵

鳥居強右衛門

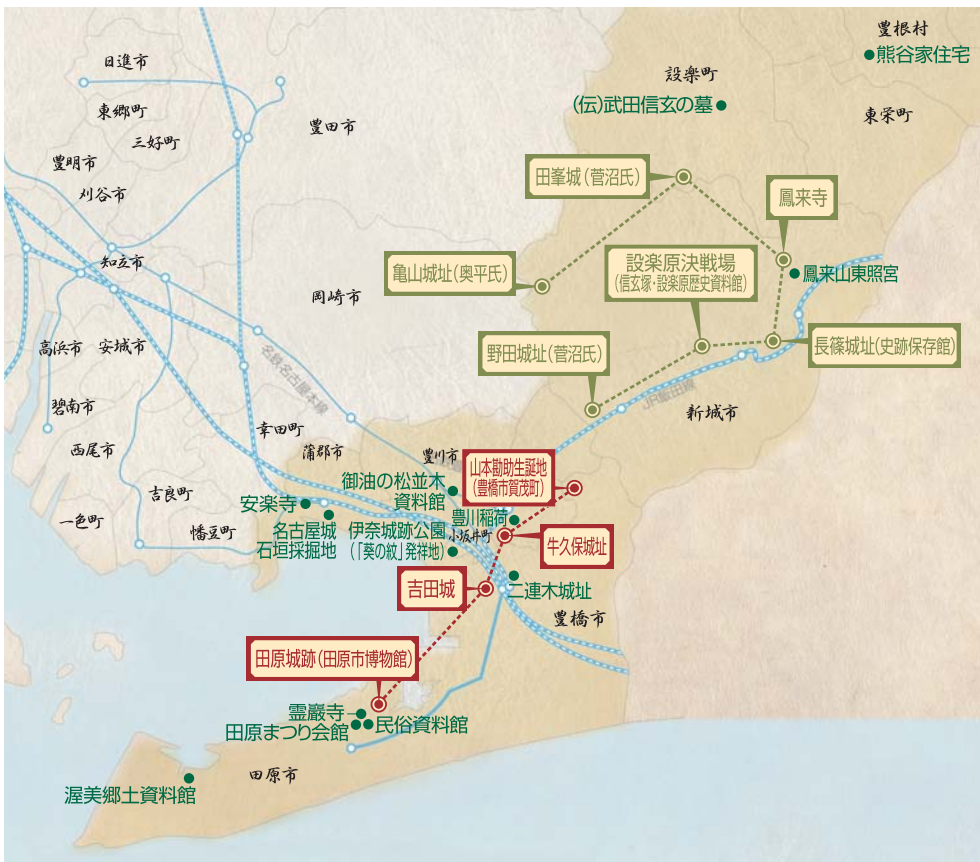


合戦の後、鳥居強右衛門は武士の模範として代々語り継がれた。

長篠城を救った
鳥居強右衛門。
こうして、
信長最大の合戦は
幕を開けた。

信長は、決して媚を売らない男であつた。一度も人の風下に立つたことがなく、美濃の蝮・斎藤道三の前でも、20歳の信長は毅然とした態度で臨んでいる。その信長が武田信玄に対しては、弱腰だつた。贈物や手紙を送り、対決することを避けてきた。それほど当時、武田騎馬軍団の強さは天下にとうろいていた。一方、武田勝頼は、武田が負けた合戦を見たことがない。連戦連勝、方につの負けも考えられなかつただろう。信玄の死後から二年間、信長は武田との戦い方をずっと考えていた。じつくりと最良の戦略を練つたに違いない。戦いの前に信長は「味方を一人も失わずに、敵を殲滅することを目指した」といふ。

戦国の雄、今川・武田・松平に挟まれた東三河。
幾度となく争奪戦の舞台となり、戦火が消える日はなかった。



豊橋市	山本勘助 生誕(伝説地 (豊橋市賀茂町))	山本勘助と 徳川「葵の紋」 ゆかりの 地を歩く
野田城址(菅沼氏)	牛久保城址・ 山本勘助の墓 (豊橋市牛久保)	
設楽原決戦場 (信玄塚・設楽原 歴史資料館)	今川義元公墓所 (豊橋市牛久保)	
長篠城址 (奥平氏史跡保存館)	伊奈城址公園 (「葵の紋」発祥地)	
鳳来寺 (於大か子授けを 祈願し、家康を 授けた)	吉田城・ 豊橋市美術 博物館 (豊橋市)	
田原城(菅沼氏)	田原城跡・ 田原市博物館 (田原市)	
豊橋市	田原城跡(岡亭氏)	

●詳しくは愛知県観光ガイドをご覧ください。www.aichi-kanko.jp/



長篠の戦いの遺品を
展示する2つの資料館。
新城市では、長篠城址史跡保存館(0536-32-0162)と新城市設楽原歴史資料館(0536-22-0673)が、火縄銃など、長篠の戦いにまつわる遺品や文献を展示している。



連戦連勝の武田騎馬軍団に、3000挺の鉄砲が火を吹いた。その時、新しい歴史が生れた。

長篠の戦いの舞台になった「設楽原の決戦場」。
武田軍、織田・徳川連合軍、総勢5万人が、長篠城をめぐるこの地で戦った。今も地形は変わっていない。
その時の馬防柵が再現され、決戦の臨場感が伝わってくる。

5月21日(現在の7月9日)、
早朝から戦いはじまった。

信長の必勝プランとは、3重の馬防柵と3000の鉄砲だけではなく。周囲に空堀や土塁を築き、背後に崖を作り、戦場に仕大な要塞を築くことであつた。そこに当時最強といわれた武田軍が突撃し、壊滅的な敗北となった。その死者は「関ヶ原の戦い」以上だったといわれている。

東海道、奥三河、
渥美への要衝地、
豊橋市。
豊橋市には浮世絵にも書かれた吉田城や二川本陣資料館など街道にまつわる名所が多い。戦国期は戦略的拠点として酒井忠次が吉田城主を勤めた。

山本勘助、
今川義元ゆかりの
豊橋市牛久保城址。
江戸期、長岡藩主を勤めた牧野氏の発祥地が、牛久保城である。付近には山本勘助の墓(長合寺)や今川義元の墓所(大聖寺)がある。今川義元の子氏真は、亡き父の三回忌を大聖寺でいとなんでいた。

渡辺華山が
家老を勤めた
田原城。
江戸期・宇都宮藩や足利藩の藩主であつた戸田氏の発祥地が田原城である。田原藩の家老であつた渡辺華山は文人としてその名を後世に残した。博物館には作品が展示されている。

徳川の紋所
「葵の紋」の発祥地、
小坂井町伊奈城址。
家康の祖父・松平清康は、伊奈城で開かれた祝宴の肴の下に敷かれた水葵を見て「古例なり」と言つたといふ。その葵が三つ葉葵の紋になったといわれる。

田原城跡(岡亭氏)

田原市博物館

吉田城・豊橋市美術博物館

伊奈城址公園

山本勘助の墓

今川義元公墓所

長篠城址

鳳来寺

田原城(菅沼氏)

豊橋市

山本勘助と徳川「葵の紋」ゆかりの地を歩く

山本勘助の墓

今川義元公墓所

長篠城址

鳳来寺

田原城(菅沼氏)

豊橋市

山本勘助と徳川「葵の紋」ゆかりの地を歩く

山本勘助の墓

今川義元公墓所

長篠城址

鳳来寺

田原城(菅沼氏)

豊橋市

山本勘助と徳川「葵の紋」ゆかりの地を歩く

山本勘助の墓

今川義元公墓所

長篠城址

鳳来寺

田原城(菅沼氏)

豊橋市

山本勘助と徳川「葵の紋」ゆかりの地を歩く

山本勘助の墓

今川義元公墓所



お市の方 *ochi no kata*

(高野山明徳院)

信長の妹。浅井長政、柴田勝家に嫁ぎ、2度の落城で二人の夫をなくす。まさに戦国を象徴するような悲劇のヒロイン。遺された3人の娘も、豊臣方、徳川方に別れ、大坂の陣で悲劇を生む。



おね *one*

(名古屋市秀吉清正記念館蔵)

秀吉の正室。後の北政所(高台院)。秀吉の出世を陰で支えた立役者。気立てが良く、情に厚く、加藤清正や福島正則から母のように慕われ、信長からも信頼されていた。

家康からも目置かれていた。



於大 *odai*

家康の母。岡崎城主・松平広忠に嫁ぐが、兄・水野信元が敵対する織田方についたため、3歳の竹千代(家康)を残して離縁される。その16年後、家康と涙の再会をはたす。天下人になった家康は、於大を迎え孝行をつくる。

戦国のヒロイン。

戦乱の荒野に咲いた八輪の花。

「秀吉とおね」を例外として、この時代の武家の女性は、政略結婚の道具にされるのが常であった。それでも、女性たちは懸命に生き、一族の命運に大きな影響を与えた。女性たちが綴る、戦国時代のもう一つの物語。



濃姫 *nohime*

(岐阜市斎藤三の娘)

信長の正室。斎藤道三の娘。美濃と和睦するための政略結婚だったといわれる。結婚したのは間違いないが、その後の史料には登場しない。死去、離縁、刺客説など、さまざまな説がある。



吉乃 *kinsu*

(前野家蔵所収)

信長の側室。生駒屋敷(小折城)の主生駒家宗の娘。嫡男・信忠、次男・信雄、徳姫を生み、信長が最も愛した女性だといわれている。吉乃が、吉乃の紹介で信長に仕えたともいう。吉乃が亡くなった時、信長は男泣きした。



千代 *chiyo*

山内・豊の正室。後の見性院。夫を盛り立てる女性を「豊の妻」とたとえるほど、良妻賢母の模範となった。信長が浅井・朝倉攻めの御馬揃いを催した際、ひそかに蓄えた10両で、夫に名馬を持たせ、信長に認められるきっかけをつくった。



まつ *matsu*

(桃栗寺蔵)

前田利家の正室。後の芳春院。利家の死後、前田家が家康から謀反の疑いをかけられた際、それを解消するために自らが入質となり、14年間江戸で暮らす。その間、関ヶ原の戦いで西軍についた次男・利政の赦免を幕府に直訴するなど前田家のために尽くした。



旭姫 *asahime*

(名古屋市博物館蔵)

秀吉の妹。小牧・長久手の戦いの後、秀吉は、家康を自分の勢力下におくために、妹を家康の正室として送り込む。すでに旭姫は44歳。夫もいたが、無理やり離縁させられた。政略結婚とはいえず、あまりにも理不尽な仕打ちだった。

豪華絢爛に独自の美を競った、戦国のファッション。

華麗なる傾奇者。

甲冑は防護服であると同時に、武将たちの死装束でもあった。それだけに、自己の主義主張をこめ、戦場での美を競った。なかでも奇抜な衣装を身にまとう武士は、傾奇者と呼ばれた。この時代、日本人の美意識が大きく育った。

色々威二枚胴具足

(名古屋市秀吉清正記念館蔵)

豊臣秀吉の甲冑。兜は備前がかる頭巾と、手にする松子をデザインしている。この甲冑姿を描いたのが8ページの錦絵だ。

馬蘭後立兜

(複製・名古屋市秀吉清正記念館蔵)

豊臣秀吉の兜。馬蘭の一種である馬蘭の葉をかたどり「日輪・太陽の子」をアピールしている。

金陀美具足

(複製・三河武士のやかた家康館蔵)

徳川家康が「桶狭間の戦い」で着た甲冑。超派手な金箔仕上げ。人質時代の家康の自己主張か。

南蛮胴具足

(岡山甲冑博物館蔵)

西洋甲冑を模した南蛮胴具足は、目新しさと堅牢さで大人気だった。信長のイメージが強いが、家康も愛用している。

ピロッドマント

(名古屋市秀吉清正記念館蔵)

秀吉の陣羽織。もとはマントであったものを仕立て直した。襟には龍と唐草、背には胡人・猿・鹿・唐草の模様が入っている。

鹿角脇立兜

(本多隆勝氏蔵)

徳川四天王の一人・本多忠勝の兜。鹿の角は、和紙を黒漆で塗り固め、猛将をイメージ。

赤地七宝にハツ手文唐織

(徳川美術館蔵)

能装束を代表する絢爛豪華な唐織。金銀糸を、刺繍のように浮き織りにしている。



紫地葵紋付辻ヶ花染羽織

(徳川美術館蔵)

徳川家康の羽織。紫地に染め抜かれた葵の葉は、色とりどりに美しい。質素ながらデザインのセンスが伺える。

真珠付純金団扇

(徳川美術館蔵)

秀吉所有の団扇。純金の枠に緋の紗を張り、その上に金糸で樹木と葉を縫いつけ、300個を超える天然真珠を付けている。

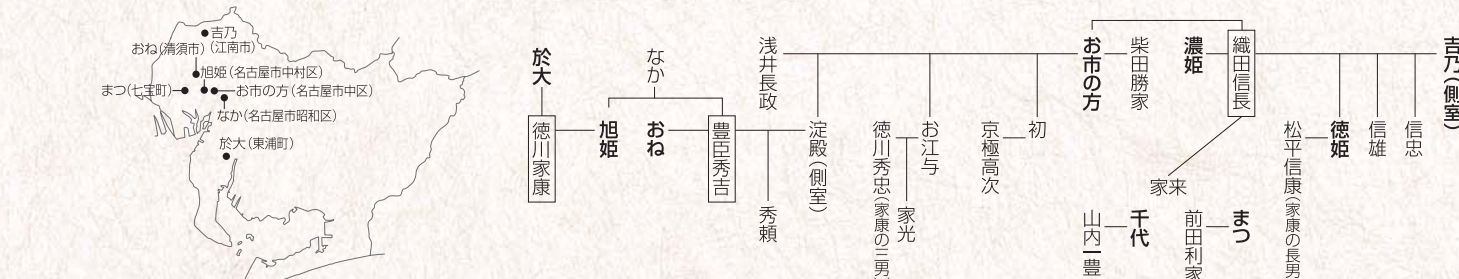
黄金色地葵紋波兔文辻ヶ花染羽織

(徳川美術館蔵)

家康の小袖。染料の劣化で、たんでいたものを復元。天下人家康にふさわしい豪華な小袖がよみがえった。



- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1 徳川美術館
名古屋市東区
052-935-6262
徳川家康の品々や尾張徳川家に伝わる大名通具類を中心に約一万数千点を収蔵。 | 2 三河武士のやかた家康館
岡崎市
岡崎公園内
0564-24-2204
徳川家康と三河武士に関する文庫、絵画、武具を展示。兜の試着体験も楽しめる。 | 3 大山市文化史料館(白帝文庫)
大山市
大山市城南
0568-62-4700
大山市城主で代々尾張藩家老を勤めた成瀬家の文庫、屏風絵、武具甲冑を収蔵。 | 4 大山市甲冑工房
大山市
大山市城南
0568-61-6000
愛知を代表する甲冑師・奥田伸道氏の工房。甲冑展示や指導、試着も体験できる。 |
| 5 名古屋市博物館
名古屋市瑞穂区
052-853-2655
県内最大の歴史博物館。考古・美術工芸・文書書籍・民俗をテーマに公開。 | 6 名古屋市秀吉清正記念館
名古屋市
中村区
052-411-0035
豊臣秀吉の生誕地・中村公園内。秀吉や加藤清正の遺品など約300点の文化財を所蔵。 | 7 長久手町郷土資料室
長久手町
古戦場公園内
0561-62-6230
長久手古戦場に隣接。「長久手の戦い」をジオラマやビデオを使って紹介している。 | 8 清洲甲冑工房
清須市
清洲公園内
052-400-2911
市民が参加して、手作りの甲冑を制作している。手作りの甲冑の試着体験も楽しめる。 |



愛知のモノづくりは、信長の天下一から始まった。



日本のモノづくりのルーツをたどると、一人の戦国武将に行き当たる。安土桃山文化を創った織田信長である。信長の革新性は、決して合戦だけではなく文化にも大いに貢献した。たとえば、全国から優れた技能者を集め、技を競わせ、その第一の者に「天下一」という称号を与えている。出雲阿国(歌舞伎)、千利休(茶の湯)、小堀遠州(陶器)、本因坊算砂(囲碁)、狩野永徳(絵画)、岡部又右衛門(熱田の宮大工)……。日本の芸能、文化、産業技術の礎を築いた巨人たちである。以来「天下一」の命名は、豊臣秀吉、徳川家康へと受け継がれ、多くの職人、技能者が、京、近江、美濃、尾張に根をおろし「モノづくりの祖」となっている。中部モノづくりの基盤は「糸(木綿)」、「木(木曽ひのき)」、「土(陶器)」からくり(工作機械)に集約されるが、そこに「天下一」の技が加わり、モノづくりの土壌を形成したと思われる。



『洛中洛外図屏風』妙法寺本(妙法寺蔵)

木綿

「木綿」は、799年にインドから三河(西尾市天竹町)に伝わった、と『日本後記』に記されている。その後、江戸期に入り“知多木綿”は全国に広がり、愛知の繊維産業の基盤を築いた。



天竹神社

からくり

「からくり」は、ポルトガルからもたらされた鉄砲と時計から生まれた。織田家ゆかりの津田助左衛門が家康の和時計を修理したことから、尾張藩に仕え、御時計師兼鍛冶頭として尾張・美濃の「からくり山車」を発展させたといわれている。



瀬戸焼

「瀬戸焼」は、信長の領土拡大と歩を合わせ、美濃焼、京焼と広がっていき、江戸時代には「瀬戸物」という名前が、陶器の名称になるほど一般に浸透した。



木曽ひのき

「木曽ひのき」は戦国時代から江戸時代にかけて、木曽川を使い尾張に運ばれていた。織田信長は安土城に、徳川家康は名古屋城に、木曽ヒノキを使っている。

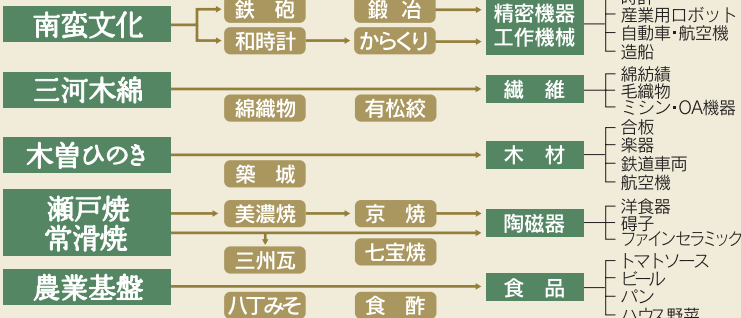


「天下一」の職人たち→愛知の「モノづくり」 ポルトガルから運ばれた「鉄砲」「時計」「地球儀」。信長が、それを見た瞬間から愛知の「モノづくり」は始まった。

楽市・楽座
(流通経済)

+

「天下一」政策
(職人と技術が集結)



「モノづくり」の国、愛知へ。

戦国時代は、知れば知るほど面白い。

戦国時代は、安土桃山時代とも呼ばれ、日本のルネッサンスともいえる時期だった。ようやく大陸の文化から脱却し、日本独自の華麗なる文化が花開く。信長・秀吉・家康は、文化・芸能においても大きな功績を残した。

信長を起源とする、日本の伝統芸能。

信長は、相撲が大好きだった。



紀州東照宮祭礼図(徳川美術館蔵)

うつけ時代から、信長は相撲が大好きだった。各地から力自慢を集め、頻繁に相撲大会を開いていた。土俵をあくしくしたり、行事を付けたのも信長。差違えた際は、切腹させられたという弓取り式も、信長が勝者に弓を与えたのが起源。信長の道楽であった相撲大会が近代相撲の原型をつくった。

落語のルーツは、武将お抱えの「御伽衆」。



安楽庵策伝(哲願寺蔵)

戦国武将たちは、知識を広げたり、娯楽のために、専属の話し相手「御伽衆」を抱えていた。なかでも織田信長、信忠に仕えた野間藤六は有名で、すでに落語「鶴頭これ」の元になる御伽話を話していた。秀吉も八百人の御伽衆を抱え、その一人、美濃の僧侶・安楽庵策伝が落語の初祖といわれる。策伝は、御伽衆が話した笑話を集め「醒睡笑」という本を出版。そこに書かれた笑話が、落語の小噺の源流になったといわれる。

信長が手厚く保護した囲碁と将棋。

戦国時代、兵法の集大成といえる囲碁に、武将たちは熱中した。特に信長の囲碁好きは有名で、囲碁相手の日海に「本因坊」という称号を与えている。将棋も囲碁同様、京都の医師・大橋宗桂に名人」という称号を与えている。囲碁も将棋も、秀吉・家康に保護され発展した。

胡蝶時給将棋盤(徳川美術館蔵)



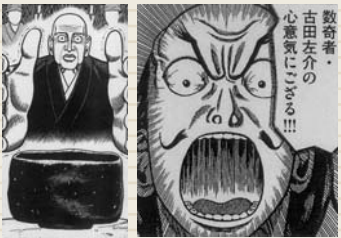
有楽斎の茶室・国宝「如庵」

戦国時代、茶の湯と和歌は武将のたしなみといわれた。特に信長は千利休を茶頭とし、名物「茶道具」狩りに熱中した。いつしか茶道具は財力と権力の象徴となり、大名物は一国一城よりも価値があったといわれる。そんな武将たちは数奇者「すきぎ」と呼ばれ、信長の弟・織田有楽斎、古田織部、小堀遠州など、武将から風雅の世界に走った者もいた。

戦国トリビア

うつけ流？
信長の名づけ感覚。

秀吉をハゲネズミ、明智光秀をキンカン頭と呼んでいた信長だが、子供に名づけた幼名も奇想天外。長男信忠:「奇妙」、二男信雄:「茶策(ちゃせん)」、三男信孝:「三七」、四男秀勝:「次」、五男勝長:「坊」、六男信秀:「大洞」、七男信高:「小洞」、八男信吉:「酌」、九男信貞:「人」、十男信好:「長好」。格式を重んじる時代に、凄い。



「へうげもの」より
数奇者・古田左介の心算算盤

天下人の遺愛品の数々、
徳川美術館。

時の最高の宝物は、時の最高権力者集まる。こうして信長、秀吉、家康と伝えられた「天下人の遺愛品」は、家康の没後、息子の義忠に与えられ、御三家筆頭の尾張徳川家に伝来した。現在徳川美術館では、家康の遺産「駿府御分物」を中心に、尾張徳川家歴代が集めた大名道具をまとめて収蔵し、その数は一万数千件にも及ぶ。国宝9件、重要文化財57件、重要美術品46件など、世界にも類をみない日本唯一の美術館だ。



物語を知れば、
戦国時代はもっと
面白い。

戦国時代の魅力は武将だけじゃない。古田織部の数奇者人生を描いた「へうげもの」。描写力が光る「信長」。超リアルな合戦で話題の「センゴク」。山家三方衆をテーマにした「風は山河より」。築城を克明に描いた「火天の城」、若者に人気の「信長の野望」など、どれも新しい戦国の魅力が堪能できる。

へうげもの
山田芳樹著・講談社刊

信長
池上遼著・メディアファクトリー刊

火天の城
山本兼著・文芸春秋刊

信長
宮下秀樹・講談社刊

信長の野望革新with
PlayStation 2
KOEI Co., Ltd.



白天目
茶碗

信長が催した茶会で用いられた事例をはじめ、さまざまな茶会記に、その使用が記されている。武野紹鷗から義直に伝来。



竹茶杓
銘目

秀吉に切腹を命ぜられた千利休が、この茶杓を削り、最期の茶会に用い古田織部に与えた。織部から家康、義直へ伝来。



古瀬戸肩衝
茶入 銘横田

足利義政、義昭、信長を経て秀吉の手に渡り、小牧・長久手の和議の際、家康に贈られた。その後、徳川義直に譲られた。



古芦屋
姥口電釜

老女の口のようになっているで「姥口」の名称が付いた。秀吉から利休七哲の一人・古田織部を経て家康の手にわたった。



青磁香炉
銘千鳥

かの太盗賊・石川五右衛門が秀吉の寝所に忍び込んだ際、千鳥が啼いて報せたという。秀吉から直接、家康へ伝わった。



唐物茶壺
銘松花

天下に鳴り響いた名品。安土城の竣工祝いとして信長に贈られ、さらに秀吉、秀次を経て家康のもとに伝えられたという。

一国一城よりも
価値があった、
大名物茶道具。

徳川美術館蔵

徳川家康	豊臣秀吉	織田信長
家康は生涯、麦飯と焼き味噌で通した頑固オヤジだった。普段から摂生を心がけ、美食をさげ、暴飲暴食を慎んでいたという。特に八丁味噌で作った焼き味噌は栄養満点。家康の長寿の秘訣は、食生活にあったのだ。	社交的な秀吉は、会食が多く、贅沢三昧な食事を楽しんでいたという。しかし、普段の食事は質素で、貧乏時代に食べた麦飯、だいこん、ごぼうを好んだそうだ。史料では故郷中村から、だいこんとごぼうの献上を命じている。	信長といえば、桶狭間の出陣の前に食べた「湯漬け」が有名。「湯漬け」とは、湯をかけた飯のこと。決して粗末な料理ではなかった。信長は塩味のきいた料理を好み、京風の薄味を嫌ったという逸話が残っている。
鷹狩弁当 	大根の煮物・ごぼうの煮しめ・あらめの煮物 	湯漬け・大根の味噌漬け・塩 
焼き味噌 味噌を固め焼いたもの。 	ひょうろうがん 兵糧丸 穀物の粉末と栄養価の高い食物を混ぜて固めたもの。 	ほ い 干し飯 ご飯を水で洗い乾燥させたもの。 

戦国グルメ

日夜戦場を駆け回っていた武者たちは、何を食べていたのか？

天下人は、どんな贅沢な料理を食べていたのか？

日常食

合戦食



おちつき膳

戦国史上最も有名な晩餐「安土御献立」(信長の家康饗応膳)。

信長が、家康をもくますために明智光秀に命じ、最高の料理を揃えさせたという。その数日後に光秀は信長に反旗を翻し「本能寺の変」が起きるわけだが、その契機となったのがこの饗応膳だともいわれている。本

献立は、その時家康に同行していた御用商人・茶屋四郎次郎が残したレシを参考に、忠実に再現している。家

康の「伊賀越え」は、この後に起る。

信長が食べた最後のご馳走。再現、安土御献立。

武将ゆかりの祭り

武将の祭りは、日本全国にみられるが、愛知県ほど数が多い地域はない。

三英傑の祭りはもちろん、戦国三大合戦をテーマにした古戦場祭りも見逃せない。

「武将のふるさと」ならでは、勇壮な祭りが堪能できる。



- 1 篠島大名行列
- 2 長久手古戦場桜まつり
- 3 若葉祭(うなごうじ祭)
- 4 松平春まつり
- 5 家康行列
- 6 郷土歴史まつり
- 7 於大まつり
- 8 大名行列
- 9 長篠合戦のぼりまつり
- 10 太閤祭
- 11 桶狭間古戦場まつり
- 12 設楽原決戦場まつり
- 13 幸田彦左まつり
- 14 ばしょう踊
- 15 ひおんどり
- 16 一豊まつり
- 17 清洲城ふるさとまつり
- 18 鬼祭
- 19 名古屋まつり
- 20 犬山城戦国武将物語

若葉祭 (うなごうじ祭) 4月上旬 豊川市 牛久保城主(後に長岡藩主)牧野氏ゆかり。まるで、うなごうじ(うじむし)のように地面にゴロゴロ寝転ぶ奇祭。	長久手古戦場桜まつり 4月初旬 長久手町 長久手古戦場公園で、ステージでの芸能発表や火縄銃の発砲・弓道大会・棒の手披露などを行なう。	篠島大名行列 1月3日～4日・南知多町 篠島の神明社・八王子社の両社といったで行なわれる祭りで、両社の神を、大名行列を仕立ててお迎えし、送る。
郷土歴史まつり 4月上旬 岡崎市 水上と山車武者パレードで構成。源頼朝をはじめ愛知ゆかりの武将たちが堀川を船で渡り、名古屋城へ向かう姿は圧巻だ。	家康行列 4月上旬 岡崎市 郷土の英雄・徳川家康公を偲び、公募で選ばれた家康をはじめ、約千名の武者や7頭余りの騎馬が絢爛豪華に練り歩く。	松平春まつり 4月上旬 豊田市 松平氏の発祥地、豊田市松平郷の祭り。手筒花火が奉納され、古式ゆかしき行列「神輿渡御」が行なわれる。
長篠合戦のぼりまつり 5月5日 新城市 大弓大会、合戦行列、武術披露、長篠陣太鼓の実演、火縄銃射撃など、長篠合戦の戦没者の供養を行なう勇壮な祭り。	大名行列 5月3日 刈谷市 江戸時代から続く伝統行事。刈谷城ゆかりの“奴のねり”や水野氏の“於大の行列奉行”など豪華絢爛な大名行列が壮観。	於大まつり 4月下旬 東蒲町 徳川家康のご母堂「於大の方」の生誕地。於大ゆかりの“於大公園”を練り歩き、華麗なる時代絵巻をくり広げる。
設楽原決戦場まつり 7月上旬 新城市 「設楽原をまわる会」が中心になり戦死者の供養や鉄砲隊の演舞を行なう。「鳥居強右衛門」祭りも開催される。	桶狭間古戦場まつり 6月上旬 豊明市 織田信長が今川義元の大軍を破った「桶狭間の戦い」。約400名の鎧・兜の武者行列が勇壮に練り歩き合戦劇を再現する。	太閤祭 5月の第2日曜 名古屋 郷土の英傑・豊臣秀吉公を偲ぶ豊国神社の祭り。参道にはたくさんのお店が並び、毎年大勢の人でにぎわう。
一豊まつり 9月中旬 一宮市 一宮市木曽川町出身の山内一豊ゆかりの祭り。出陣式、戦国時代パレードのほか、市民参加の楽しい催しを開催。	ひおんどり 8月15日 新城市 長篠の戦死者を弔い、信玄塚では大たいまつに火がつけられ、勇壮に振り回される。400年以上の歴史をもつ祭り。	ばしょう踊 8月 一宮市 古くから伝わる雨乞いの祭。織田信長の美濃攻めの凱旋を起源とする。独特の踊りと奇抜な衣装が目をひく。
犬山城戦国武将物語 10月下旬 犬山市 約250名の甲冑武者隊が、城下町を練り歩き犬山城広場に集結。踊り隊による演舞、和太鼓演奏、火縄銃の演舞など、国宝・犬山城を背景に行なわれる。	名古屋まつり 10月中旬 名古屋 信長・秀吉・家康が数百年を従えて行進する郷土英傑行列、山車の揃い踏み、縄銃の演舞など、国宝・犬山城を背景に行なわれる。	鬼祭 10月上旬 津島市 加藤清正が、鬼の面をかぶって盗賊を追っ払った、という逸話が起源。鬼面をかぶって鬼たちが津島神社を詣でる。
		清洲城ふるさとまつり 10月上旬 清須市 手作りの甲冑で練り歩く時代行列や清洲城ひろばでのイベント、火縄銃の実演など戦国時代ヘタムトリップ。

今に伝わる、戦国グルメ。

家康の天下取りの糧は豆味噌(八丁味噌)だった。

その栄養価の高さで戦国武将たちに重宝された豆味噌。織田信長はネギに付けて食べ、徳川家康は丸めて焼いた焼き味噌を必ず合戦時の常用食に用いたと言われている。その製法は今でも変わらず愛知の食文化にいかされている。

木曾川、矢作川など、豊富な河川が川魚文化を産んだ。

豊富な河川を持つ愛知県は、その恵まれた環境から川魚の食文化を育んできた。木曾川、矢作川、豊川の鮎、奥三河のアマゴ、鰯など、戦国武将たちも舌鼓を打ったことだろう。

山間部に脈々と伝わる、愛知の山の幸。

変化に富んだ気候や立地、豊富な水資源。愛知県の山間部には、山の幸をいかした独自の料理が、今も脈々と伝わっている。山菜は非常食として、城の壁に埋め込まれていたという。



地バチ料理(豊田市)



竹膳料理(岡崎市)



とろろ飯(瀬戸市)



鮎料理(岡崎市・設楽町・豊田市)



鮎の魚田(犬山市)



アマゴ料理(豊田市・新城市)



菜めし田楽(豊橋市・犬山市)



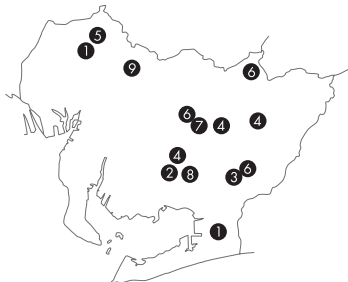
木の芽田楽(岡崎市)



五平もち(新城市)



- 1 菜めし田楽(豊橋市・犬山市)
- 2 木の芽田楽(岡崎市)
- 3 五平もち(新城市)
- 4 鮎料理(岡崎市・設楽町・豊田市)
- 5 鮎の魚田(犬山市)
- 6 アマゴ料理(豊田市・新城市)
- 7 地バチ料理(豊田市)
- 8 竹膳料理(岡崎市)
- 9 とろろ飯(瀬戸市)



[illegible]

愛知県内の「武家の発祥地」

●尾張出身 — かつて織田信長、豊田秀吉の同族、家臣たち。

所在県	藩主名	藩名	所在県	藩主名	藩名	所在県	藩主名	藩名
山形	織田家	天童	三重	土方家	菟野	岐阜	池田家	浅尾
福島	丹羽家	二本松	滋賀	堀田家	宮川		崎田家	生坂
新潟	堀家	村松	京都	小出家	園部		池田家	鴨方
	堀家	椎谷	大阪	高木家	丹南		木下家	足守
栃木	溝口家	新発田	奈良	織田家	柳本	徳島	浅野家	高島新田
群馬	堀田家	佐野		森家	赤穂		池田家	徳島
千葉	前田家	七日市		森家	三原		山内家	土佐
	久松家	多古	兵庫	織田家	若狭		池田家	高知新田
富山	堀田家	佐倉		池田家	大聖寺	大分	池田家	日出
石川	前田家	加賀	鳥取	池田家	須坂		池田家	
	堀家	大聖寺	岡山	池田家	飯田		池田家	
長野	堀家	飯田		池田家			池田家	

江戸期大名の
約7割が愛知ゆかり。

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康。

愛知県内の
「武家の発祥地」

乱世から平和な時代へ。
信長・秀吉・家康を支えた愛知の武将たち。

信長の「天下布武」で幕をあげ、家康の「元和堰武」で幕をとじた戦国時代。個性豊かな戦国群雄の中にあつてなお、光りを放った愛知の武将たち。彼らが乱世に終止符を打ち、平和な時代を築いた。

その他の主な武将

okubo tadayo

小田原城主／岡崎市上和田町

auchi kazutoyo

土佐藩初代藩主／一宮市木曾川町・岩倉市

fukushima masanori

広島城主／美和町

(名古屋市秀吉清正記念館蔵)

(名古屋市秀吉清正記念館蔵)

熊本城主／名古屋市中村区

(美和町歷史資料館藏)

(美和町歷史資料館藏)

子・家政が徳島藩初代藩主／美和町

(桃雲寺藏)

(桃雲寺藏)

名田長盛 (福岡市東区)	名田市東区	北の庄城主
稲佐城長盛 (福岡市南区)	郡山城城主	
長束正家 (和歌山県東牟婁郡)	水口城主	
丹羽長秀 (京都市西區)	白河城主	
佐々成政 (京都市西區)	富山城主	
佐久間盛政 (京都市昭和区)	金沢城主	
池田輝政 (京都市中川區)	姫路城主	
生駒親正 (京都市中區)	高松城主	
淺野長政 (宮城県野田郡)	甲府城主	
堀尾吉晴 (山口県尾道市)	松江城主	
溝口秀勝 (福井県西勝町)	新築城主	
三河武士 (三河武士)		
酒井忠次 (岡崎市井田町)	吉田城主	
平石親吉 (幸田町 尾張藩家老)	新築城主	
大久保彦左衛門 (福岡市上和町)	旗本	
不多忠勝 (福岡市西蔵前町)	藝城主	
島田忠吉 (加藤嘉明)		
西原康政 (和歌山県三好市)	永良町 松山城主	
山本勘助 (豊田市上郷町)	館林城主	
山本勘助 (豊田市久保町)		
堀川市警茂司 (武田軍重臣)		